

安芸高田市に 住みたくなる本



あなた × 安芸高田 = あなたらしい生活の実現を。



contents

安芸高田市の魅力 02

起業 × 挑戦するオーナー 04

空き家活用 × U・I ターン者 06

お太助ワゴン × 運転をしない暮らし 08

出会い × 結婚サポート 10

子育て × 保健師・栄養士 12

教育 × 学びやすい環境 14

伝統芸能の継承 × 神楽 16

農業 × 若者 18

多文化共生 × 外国人 20

生活支援員制度 × 高齢者 22

光ネットワーク × ビジネス 24

数字で見る安芸高田 26

お問い合わせ 27

広島県、安芸高田市。

市の文化を代表する伝統芸能の神楽は、
100年を超える長い月日をかけて
いくつもの要素がかけ合わさり
子どもからお年寄りまで楽しめる
エンターテインメント性の高いものに進化しました。

そして、今、まちづくりにも
脈々と受け継がれてきたまちの文化に
現代のヒトやモノを融合させた
新しい取り組みが始まっています。

今ここで行われている
暮らしやすさを追求した
取り組みをご紹介します。

表紙について



南澤さんご一家

平成26年に広島市から安芸高田市へ移住。ご主人の克彦さんは「地域おこし協力隊」として3年間鳥獣害対策に携わり、鹿革を使った革製品やジビエ料理など、命向き合いながら活用できる方法を考えてこられました。その経験を活かし平成30年4月に自宅の納屋を改装したカフェ「iegoto(いえごと)」をオープン。地元野菜をたっぷり使ったランチや、鹿のキーマカレーなどこだわりの料理を提供しています。

iegoto
<http://iegoto.live/>



〔写真の説明〕 ◆市内には22もの神楽団があり、日々その技を磨いています。神楽門前湯治村では、神楽団が交代で年間約150回の公演を行っています。◆安芸高田市最大の花火大会。夜空と土師川の湖面に広がる花火は圧巻。◆サンフレッチェ広島のマザータウン。市内にある選手たちの練習拠点の吉田サッカー公園には、多くのサポーターが訪れます。◆5月の後半から6月の前半にかけて市内各地で開催されるはやし田の実演会。美しい田園絵巻は必見です。◆毛利元就の墓所のほど近くにある百万一心碑。毛利元就が郡山城を拡張する際、埋めた石碑に「百万一心」と彫って埋めたと伝えられています。◆戦国武将 毛利元就の本拠地です。◆甲田町にはハンドボール実業団チーム 湧永製薬ハンドボール部「ワクナガレオリック」があります。◆1823年に唯称庵主本勘上人が京都高尾より取り寄せて植えたカエデの老樹。秋には見事に紅葉し、見る人を魅了します。

起業

挑戦するオーナー

8〇8cafe オーナー
山岡由佳 さん
YUKA YAMAOKA

起業支援事業の助成があるなら
オープンできると背中を押してくれました



市の制度をうまく活用して夢を叶えた山岡さん。[月に1度、婚活パーティーも開催しています]



(右)この日の日替わりランチ(880円)は、メインにマト煮込みハンバーグが登場。副菜はブロッコリーと卵の中華和えや春雨の酢の物など



(左)座った時の視線に配慮して、あえてランダムにテーブルを配置した店内。手作りのアットホームな雰囲気が漂います

結婚希望者に出会いの場を提供する市の結婚コーディネートとして活動している山岡さん。カフェをオープンしたのも、このコーディネートとしての活動がきっかけでした。「お見合いやイベントを開催する時、静かでない目につかない、雰囲気がいい、個室があるなど、様々な条件を満たすお店は多くありません。それなら自分で作ってしまおうと思っただけです」。もともとカフェ巡りが好きだったことから、オープンするお店はお見合いもできる落ち着いた雰囲気のカフェに決定。気持ちが固まったことで物件を探し始めましたが、最初はなかなかいい場所に巡り合えませんでした。「古民家で雰囲気のいいカフェをやろうと空き家バンクなども参考にしましたが、店をするとなると条件の合うものに出合いませんでした」。

知識や技術が必要なものの以外は、山岡さんのご主人と、友人の2人で仕上げた思い入れの強い店です。木調の落ち着いた店内には、2人のアイデアの詰まった移動できる和室の小上りも配置。店内を広く使いたい時は移動させて、広々としたフロアを作り出すこともできます。店名は5つの〇で「五円(ご縁)を繋ぐお店」にしたいと、『8〇8cafe』(ハチマルハチカフェ)と名付けました。栄養士の資格を持つ山岡さんが作るメニューには、山岡さんの実家が栽培した新鮮な野菜をたっぷり使用。メイン、副菜3種、ごはん、味噌汁がセットになったバランスの良い日替わりランチはこの店の人気メニューです。

「助成金の存在を知らなかったら、まだ起業に踏み切れていなかったかもしれません。この事業があるならオープンできると背中を押してくれました」と山岡さん。今では、お一人様から小さなお子さんを連れたファミリー、年配の方まで幅広い年齢層が訪れます。「ふらりと立ち寄れる地域のコミュニティスペースになれたらうれしいです。長く地元の方に愛される店にしていきたい」と夢を語ってくれました。

起業支援事業

とは

安芸高田市内で起業する人、または異業種となる新分野に進出する人に対して、起業にかかる経費の一部を助成する制度。対象となる経費は建物改修費、設備費、賃借費及び通信費です。建物改修費、設備費は100万円を上限に補助対象費の1/2以内を助成。賃借費及び通信費は各年度30万円を上限に3年間1/2以内の助成が受けられます。

山岡さんはこれを活用



8〇8cafe
住所／安芸高田市吉田町常友
1269-2
時間／9:00～18:00
定休日／土・日曜、祝日

空き家活用

U・I・タ・ー・者

自分たちでヨツヨツと改修。数えきれない人に支えられての安芸高田暮らしです。



大阪市からのIターン

伴井護さん

友里絵さん

MAMORU TOMOI
YURIE TOMOI



2人力を合わせて、改修工事はまだまだ続きます。「たぶん、永遠に改修し続けると思います。それも田舎暮らしの醍醐味」と護さん



知人のリフォームにも手伝いに行きました。DIYのノウハウをいろいろと教えてもらえました

空き家活用

に関する制度



■ 空き家情報バンク

居住者のいない空き家の登録を募り、空き家の利用を希望する人に物件情報を提供する制度。市のHPで情報確認でき、窓口でも相談することができます。

■ 空き家購入補助金

子育て世帯・婚活世帯等及び転入者に対して、空き家情報バンクに登録されている空き家の購入にかかる費用を助成金として交付する制度。要件ごとに15万円から25万円の補助金を受けられます。

■ 空き家改修事業補助金

空き家情報バンクに登録されている空き家を、市外の空き家利用者が市内の事業者を利用して改修を行う場合に、工事費の一部を補助する制度。対象となる人、住宅、工事などの要件を満たせば、100万円を上限として改修工事費の1/2が補助金として受け取れます。



ご近所さんとの新年会にも参加。野菜をもらったり、食事会に誘われたり、人を紹介されたり。濃厚な近所つきあいにも心地よさを感じています



現地を見て、一目で気に入った改修前の家。レトロな佇まいと自然豊かなロケーションが2人のハートを鷲掴みにしました



「今の暮らしにとっても幸せを感じている」と話すお二人。「なんでみんな移住しないんだろう」と笑います

レクト。再度、市を訪問し現地を確認しました。「その中に、赤くてつややかな屋根瓦と真っ白な外壁に一目惚れした家がありました。大分傷んでいましたが、自分たちで改修したかったので全く気になりませんでした」と友里絵さんも話します。物件の購入には市の『空き家購入補助金』、改修にかかる費用は『空き家改修事業補助金』を活用。現在は同じく空き家バンクを活用して賃貸の戸建てに暮らしながら、自分たちでヨツヨツと改修を進めています。「減築や屋根の葺き替えなどはプロに任せて、自分たちでできることは全てやっています。床はぎや天井はぎなどは大阪の友人も来て手伝ってくれました。隣の家で作業をしている明木さんが様子を見に来てくれたり、空き家の管理を任されていた中島さんがアドバイスをくれたり、林業を修行中の住吉さんが庭木の剪定をしてくれたり、近所の梶山さんが資材運びを手伝ってくれたり、数えきれない人たちに支えられています」と護さん。平成28年に移住して約1年が過ぎ、「濃厚な人付き合いはイメージのまま(笑)。住み慣れた土地を離れることに不安もありましたが、毎日退屈することがありません。人が人を繋いでくれて、年齢の離れた友人もたくさんできました」とご夫婦は笑みを浮かべました。

結婚後、大阪市内に暮らししていた伴井さんご夫婦は、いつしか都会の暮らしに違和感を持ち、将来的には田舎に暮らしたいと思っていました。全国各地で移住先を探中、最初に訪問したのは安芸高田市。「初めて連絡したのは地域おこし協力隊の方。FBにアクセスするとすぐに手際よく準備して招いてくれました」と護さん。ゴールデンウィークを利用した2泊3日の訪問は、農業をやってみようという護さんの要望に応じて、地域おこし協力隊の方が主催した米づくりのイベントに参加したり、農業法人トベコを紹介されたり、田舎の雰囲気が伝わる喫茶店でランチをしたりと盛りだくさん。夜は隣の三次市から移住してきた豊田さんの家に民泊。まちの雰囲気、暮らす人の人柄に存分に触れたご夫婦は、その月のうちに移住を決意しました。「市役所の人もすぐに移住に必要な資料を送ってくれ、移住者を迎え入れる制度がしっかりしていると感じたこと、農業法人トベコの平栗さんが『ぜひきてほしい!』と言ってくださり、仕事の心配がなかったこと、そして自然豊かな環境と人柄の良さが決め手になりました」とご夫婦は話します。

住まいは大阪在住時に市の空き家バンクを活用して気になる3物件をセ

お太助ワゴン

運転をしなない暮らし



お太助ワゴン利用者

山本えみか さん

EMIKA YAMAMOTO

自宅のアパートの駐車場まで来てくれるお太助ワゴン。スライドステップ付きで小さなお子さんも乗り降り楽々

車を持ってば費用もかさむし、運転も苦手
公共交通機関の利用でいろいろ楽になっています。



車窓からの景色。乗るたびに新しい発見があるのも、山本さん親子の楽しみになっています

市内を走る『お太助ワゴン』。事前予約で家の近くから目的地まで移動できる便利な交通手段です。まだまだ高齢者向けのイメージが強いですが、プールや運動公園などへの移動にも利用でき、子どもから高校生、小さなお子さんを連れたお母さんまで、幅広い世代が利用しています。このお太助ワゴンを、月1回のペースで利用している山本さん親子。世帯で車を1台所有していますが、日中はご主人が通勤に使っているため使用することができません。平成28年の夏ごろ、お子さんの健診のためバスで保健センターを訪れた時、職員にバスの待ち時間が長くて大変だったことを伝えると、お太助ワゴンを同世代のママたちが使っていることを教えてくれました。「なんとなくその存在は知っていましたけど、高齢者向けのサービスだと思っていました。自宅近くの甲田支所で登録はすぐ完了。予約は電話一本でできますし、オペレーターの方も自宅近くに何時ごろ到着するのか、目安の時間も教えてくれるのでムダがありません」と山本さんは話します。スーパーやコンビニは徒歩圏内にあり、日常生活に車は必要なし。市の中心部である吉田町の役所や保健センター、病院などに行く際にワゴンが大活躍しています。

お子さんも乗り物が大好きで、お太助ワゴンに乗るとワクワクしながら車窓の風景を眺めているそうです。「私たち夫婦は北九州市出身で、安芸高田市内に知らない場所がたくさんあります。『こんな細い道を通るんだ』とか『こんな山の中に民家があるのか』と、ワゴンに乗らなければ見ることができなかった景色をたくさん見ることができました。車内は、運転手さんや一緒になったおばあちゃんや子どもと一緒に話しかけてくれて、目的地まで退屈することはありません。」

お太助ワゴンを利用するようになってから、車がないことへの不便さを感じた事がないと話す山本さん。「子育てサークルで知り合ったママが乗せてくれることもありまして、公共の交通機関も使いやすい。車を2台持てば維持費やガソリン代などの費用もかかります。何より私、運転が苦手なんです(笑)。お太助ワゴンやバス、JRなどの公共交通機関を使うことで、経済的にも精神的にも楽になっています。このまま車の必要がない生活を続けていきたい」と笑います。車が一家に2台、3台ともいわれる時代に、公共交通を上手にフル活用した、エコな安芸高田ライフを満喫していました。



この日はお子さんの健診のため保健センターを訪問。お太助ワゴンで待ち時間なくスムーズに訪れることができました



車窓からの景色はいつも刺激がいっぱい。山本さんもお子さんもワクワクしながら景色を眺めています

お太助ワゴン

とは

平成22年10月から市内全域の運行をスタートした登録制の公共交通。ワゴンは出発地点から一番近い予約先から順番に乗降を繰り返しながら最終目的地に到着。出発地点から目的地までを1時間以内で走るため、迎え時間や到着時間を指定することはできませんが、予約時にオペレーターが目安の時間を伝えてくれます。年間で延べ約4万人が利用する、市民生活に欠かせない移動手段です。

ドアツードアの
便利な
公共交通

出会い

結婚サポート



結婚コーディネーター

大山美重子さん
MIEKO OOYAMA

大山さんに背中を押してもらったから
今の幸せがあります



大瀬音学さん
志穂さん
蒼くん

MANABU OOSEDO
SHIHO OOSEDO
SOU OOSEDO

安芸高田市では、結婚を希望する人に支援を行う『結婚サポート事業』を展開しています。その事業の中心となるのが、出会いの場を提供したり、相談や紹介などを行う結婚コーディネーター。平成21年の事業開始以降、その活躍により8年間で43組の夫婦が誕生しました。平成30年2月現在、17名のコーディネーターが精力的に活動を行っています。その一人が大山美重子さん。「昔からカッパルを作るのが好き(笑)。結婚を希望している人に早く幸せになってもらって、元氣な赤ちゃんを産んでほしい!」と話します。コーディネーターとしての極意は言いたいことをオブラートに包まず伝えること。「男性は特に素直に話を聞いてくれない人が多い。言いたいことははっきりと言うことがポイントですね」と頼もしいお言葉。事業開始から大山さんのサポートで3組が結婚し、幸せな暮らしを送っています。

大山さんの喝が入りました(笑)。この一言で結婚への意識がぐっと高まっていったと思います」と大瀬音さん。交際期間をとお二人はゴールイン。蒼くんという宝物もできました。大瀬音さんは「結婚して子どもができて、やっぱり父親としての責任感が湧いてきました。背負うものがあるということは幸せなこと。何事も家族がいるから頑張れます」と幸せそうな笑顔を見せます。大山さんとお付き合いはこれで終わりではありません。結婚後も食事会や地域の祭りに招待したり、自家製の漬物をプレゼントしたり、まるで親戚のようなお付き合いが続いています。「私にとって大山さんは頼りにできるもう一人のお母さん。いつまでも温かく見守ってくれることに感謝の気持ちでいっぱいです。今、とても幸せです」と奥様。「夫婦で一生懸命赤ちゃんを育てている姿を見るのが私にとって一番の幸せ。子育てをしながら夫婦としても育ってほしいです」と大山さんは優しい目でご家族を見つめます。次はご主人のいとこになる男性のお見合いや大きな婚活イベントが控えているという大山さん。今日もどこかで誰かの幸せのために市内を駆け回っているはず。



大山さんご夫婦。ご主人と一緒に仲人をする時にもご主人を巻き込んで、一緒に婚活事業に取り組んでいます



(上)大瀬音さんご家族はご主人の両親と同居。かわいい蒼くんにみんなメロメロ。一家のアイドルです
(右)大瀬音さんが奥様に初めてプレゼントしたネックレス。「どんなのが似合うかなーと考えながら一生懸命選びました」
(左)みんなに祝福された結婚式での一枚。お二人とも緊張した面持ちで記念写真に収まっています

大瀬音さんはこれを活用

結婚サポート事業

とは

少子化対策の一因とされる未婚の男女の増加に歯止めをかけるため、結婚を希望される方の支援を行う制度。結婚相談員と結婚コーディネーターが、結婚希望者から相談を受けたり、結婚希望者の紹介を行う『結婚縁結び事業』と、出会いの場を提供する『カップリングイベント交流イベントの事業』の2つの事業に取り組んでいます。

子育て

保健師・栄養士



保健師

柳川美夏さん

MINATSU YANAGAWA

妊婦さんやお母さんの相談を受けたり、必要に応じてサークルや相談機関につなげたりする役割を担う保健師。不安を抱えるお母さんに寄り添い、安心感を持ってもらうことが、最も大切な仕事です。

市では、子どもが小学校に入学するまでさまざまな母子保健事業を行っています。なかでも赤ちゃん訪問は、保健師がお宅を訪問して行う育児相談で、とても大切な事業と位置付けています。

「子育て中は、一人で悩みを抱え込んでしまうお母さんも多い。私は、まだお母さんではありませんが、どんなことでも気軽に相談をかけられる身近な保健師になりたいと思っています。日々、お母さん方から教えていただくこともたくさんあります」。柳川さんの穏やかな口調と優しい笑顔に多くのお母さんが癒されています。



無料なのに行かないなんて損！
心配事がなくても毎月育児相談に行っています

寿賀崎さんが初めて育児相談に訪れたのは悠斗くんが1才の時。ご飯を食べないことを不安に思い、思い切った相談に出掛けました。「最初はどんなものか分からなかったので行きづらさはありませんでした。いざ相談してみると栄養士さんは『大丈夫！気にしなくていいよ！』と満面の笑み。一気に肩の力が抜けました。きつと安心できるひと言がほしかったんですね」。ジャガイモを食べない悠斗くんのために、その日はジャガイモを使ったきんぴらのレ

寿賀崎沙耶香さん
悠斗くん
瑛太くん

SAYAKA SUGAZAKI
YUUTO SUGAZAKI
EITA SUGAZAKI



栄養士

大下裕美さん

YUMI OOSHIMO

いつも明るく、周りに笑い声が絶えない大下さん。その笑顔で、お母さんたちの話しやすい雰囲気づくりを心がけています。大下さんの主な仕事は、毎月開催している育児相談や4ヶ月〜1歳6ヶ月までの親子を対象としたすくすく離乳食教室で行う、離乳食や食生活のアドバイスや相談対応です。「やっぱり一番多い相談はお子さんの食事に関すること。今はネットで何でも調べられ情報があふれている時代ですが、より身近に感じてもらうために自分の実

体験をベースにした対処法をお伝えしています」。ネットで怖いのは間違った情報を得てしまうこと。「専門職として正しいことを伝えていくことはもちろんですが、この世界も日進月歩。自身も勉強の毎日です」。大下さんは研修会に出たり他の市町との情報交換会などにも参加して、日々知識を深めています。「私の目標はとにかくお母さんを笑顔にすること。悩みが解消されたお母さんの晴々とした顔が最高の「褒美です」と微笑みました。



悠斗くんは2歳6ヶ月健診で、歯磨きの仕方を教わりました。寿賀崎さんも積極的に質問します

シビを教わって帰りました。それから、心配事がなくても毎月の育児相談に顔を出し、離乳食教室などにも参加。「子育ての先輩でありプロである保健師さんや栄養士さんに無料で相談できる場所があるのは貴重。何でも聞かざるや損だと思っています（笑）。寿賀崎さんは、育児サークル『どんぐりころころ』にも参加し、市のプレイルームも活用。「ママ友もたくさんできたし、子どももいろいろな体験をさせてもらっています。安芸高田市は自分次第でネットワークがいくらでも広がる環境。保育園など知りたい情報もママ友のクチコミで教えてもらうことが多いです」と話します。寿賀崎さんは市の事業やネットワークを最大限に活用して、子育てを心から楽しんでいました。



育児相談の時は、いつも笑顔に。どんな些細なことでも気軽に相談できる信頼関係が生まれています

安心して
子育てができる
まちに！

母子保健事業

とは

安芸高田市では妊娠から小学校に入学するまで健診や予防接種等の16の事業を行い、出産や育児に関するお母さんの不安を解消する環境づくりを目指しています。また、毎月1回、誰でも参加できる育児相談を実施。保健師、栄養士が必要に応じて相談を受け付けています。

教育

学びやすい環境

子どもたちがのびのびと育つ環境を整え、
ふるさとを誇りに思う教育を



安芸高田市立 美土里小学校

MIDORI ELEMENTARY SCHOOL



教室と廊下の間仕切りは3本の柱だけ。子どもたちはまるで森の中にいるかのようなリラックスした空間で日々勉強に励んでいます



美しい天然芝を敷き詰めた校庭。一角には雨水を活用した池(ピオトープ)もあります



木の温もりあふれる開放的な校舎内。統合した4つの小学校をイメージした4つの天窓から明るい光が注ぎます

子どもファーストの教育現場を!

教育環境 を整備

安芸高田市では近年の地球温暖化を考慮して、平成29年度に全中学校と一部の小学校の各教室にエアコンを設置。平成30年度にはすべての小学校の普通教室にエアコンが配置されます。これからの児童生徒にとって快適な学習環境を整えるための取り組みを続けていきます。

いことではありますが、子どもたちにとってはメリットも多い。実際、開校したばかりの頃、子どもたちは『友達がいっぱいできてうれしい』『自分より勉強ができる子がいた』といった意味で刺激をたくさん受けていました。少人数の和気あいあいとした雰囲気の中では学ぶことが難しかった人との関わり方や、コミュニケーション力を培い、人間力を高めていく。それが生活意欲や学習意欲にもつながっているのではないのでしょうか」と話します。

また、同校では平成27年から4年生の国語の授業で美土里小の魅力を含め込んだ新聞づくりを行っています。さらに総合的な学習の時間には、美土里町の自然や神楽、お米などを題材に、子どもたちが様々な人に聞き取りを行いながら、そのものに詰まった地域の人の想いや歴史に触れ、学校や地域の魅力を再発見しています。「自分が住んでいる地域や文化を知ること、ふるさと・安芸高田市が好きだと感じられる子を一人でも増やしたい。実際、この授業を終えると自分たちのまちを誇りに思うようになっていきます」と富岡校長。ここでは子どもたちを地域の貴重な財産と位置づけ、学校と地域が一丸となった教育と快適な学びの環境づくりが行われています。

緑豊かな自然の中、ひと際映える建物があります。それは生桑小学校と北小学校、本郷小学校、横田小学校の4校が統合して平成15年に開校した美土里小学校。校舎と児童館、社会教育施設としての機能を持った講堂（ホール）、図書館などが一体となった複合施設で、『B&G美土里海洋センター』や『総合運動公園』も隣接しています。

天井が高く開放的な校舎には、安芸高田市産の木材をふんだんに使用。壁もドアもないオープンな教室で子どもたちはのびのびと学校生活を送っています。校庭には日本芝のヒメノが敷かれ、子どもたちは屋内でも屋外でも裸足。その効果からか、平成29年度には広島県教育委員会が県内の児童生徒の体力・運動能力調査で優れた結果を残した児童生徒を表彰する『体力優秀賞』に20人が選ばれました。気候や天気の良い日は芝生でゴロゴロと気持ち良さそうに寝転んだり、バランスボールを使ってピョンピョンと飛び跳ねて遊ぶ元気な子どもたちの姿を見ることができま

当時、教頭として開校に立ち会った富岡校長は「木の温もりいっぱい校舎を見たとき、地域の人の子どもたちに対する愛を感じ、日本一の校舎が完成したと思いました。小学校が統合されるということは、地域にとって寂

伝統芸能の継承

神楽



地域の人が大切にしてくる神楽を

また次の世代で繋げたい

塩瀬神楽団
奥原 伶至 さん
RYUJI OKUHARA

全国有数の神楽どころとして知られる安芸高田市。市内でも美土里町、高宮町は神楽が盛んな地域です。その地区にある神楽団のひとつ、塩瀬神楽団に後継者としての決意を固めた若者がいます。この春、地元吉田高校を卒業した奥原伶至さんは、就職や進学で団を離れる仲間も多い中、地元就職し神楽団に残ることを決めました。「地域の伝統を絶やしたくないと思うようになったのは高校生になってから。子ども神楽団から神楽団員になり、先輩方から伝統芸能としての神楽の大切さ、素晴らしさ、地域に対する感謝の気持ちを学びました」と話します。「私たちの団は、地元の神事に一番重きを置いています。秋に開催される塩瀬八幡神社秋季祭が私たちにとっての一大行事。地域あつての神楽団ですから」と父であり団長でもある祐一郎さんも続けます。

伶至さんが初めて父の練習に付いて行ったのは3才の時のこと。それ以降も父と一緒に練習に通い続け、小学校に入学すると子ども神楽団に入団しました。「子ども神楽団の時は、とにかく教えてもらうことをできるようにやることに一生懸命。小さな頃からやっていたのでそれなりに自信もありました。それが神楽団に入り、先輩と一緒に舞うと自分がどれだけ下手かを痛感。その挫折があったからこそ、今の自分があるのだと思います」。高校は神楽部に入部するため迷うことなく地元の吉田高校に進学。3年生では部長として後輩を引っ張り、神楽甲子園にも出場しました。「いろいろな神楽団の団員が集まる部活は、地域の団とはまた違った勉強ができる場所。それぞれ特徴のある舞や音をどう調和させていくか、悩むことが多かったですが視野はすごく広がりました」。高校での部活を振り返りました。「これまでも神楽をやめたいと思ったことは一度も

なかった」と胸を張る伶至さん。神楽団の後継者となる決断は、伶至さんにとってごく自然なことだったのかもしれない。「長く一緒に神楽をやってきた同級生が進学で団を離れることになりました。彼が戻ってくるまで僕が団を守ります」と目を輝かせました。安芸高田市の神楽団はまちの活性化にも貢献しています。全国でも珍しい神楽専用舞台「神楽ドーム」を備える観光交流施設神楽門前湯治村で、22の神楽団は交代で年間約150回もの公演を行っています。昔から地域で親しまれてきた伝統芸能は、今や年間約3万人の鑑賞者を呼び込む貴重な観光資源になりました。公演のほか、衣裳の試着体験などもあり、神楽をより身近な存在にしています。神楽団員はそれぞれが本職を持つボランティア。神楽好きな人が増えればと願い、定期的な公演に協力が続いています。



練習は週に2回。父や先輩からは技術的な面だけでなく、神楽への向き合い方や地域への想いなど学ぶことが多いといいます



練習が始まると、さっきまでの和やかな雰囲気からは一変。空気がピンと張り詰めたような緊張感が漂います



伶至さんは神楽門前湯治村の定期公演に出演。「ここでの公演を機に、団のファンが付いてくれたらうれしいです」

団員の追っかけが
いるほどの
人気っぷり

ひろしま安芸高田神楽

とは

もともと収穫期に行われていた神事で、出雲流神楽が石見神楽を経て江戸期に伝わりました。新舞発祥の地とされ、勸善懲悪の分かりやすいストーリーが魅力です。市では神楽をテーマにまちおこしに取り組み、22の神楽団の協力を得て神楽門前湯治村での定期公演を行っています。高校生の神楽甲子園や神楽の技術を競う競演大会、各地で行われた競演大会の頂点を競う神楽グランプリなども開催しています。



伶至さんは、父で団長の祐一郎さん、笛を担当している母のゆかりさん、子ども神楽に入団している弟の来羽くん、祖母の5人家族。生粋の神楽一家です

農業

若者



引地さんが就農して初めて収穫したミニトマト。収穫の喜びが原動力です



ふかせでは米やミニトマトのほか、玉ねぎや広島菜、もち麦なども栽培しています



ハウスはミニトマトとレタスの二毛作。冬季のハウスは瑞々しいレタスでいっぱいです



若き農業の担い手として先にふかせに就農していた浅井剛さん。引地さんにとって農業の先輩であり、何でも話せる兄のような存在でもあります



法人への就農は先輩方が作った母体で夢を実現できる新しいカタチだと思います

新規就農

に関する制度

引地さんはこれを活用

■ **農業後継者育成支援事業(安芸高田市・JA広島北部との基金活用事業)**
農業技術大学の授業料、学生寮費、学習経費、寮食費などの支援や、卒業後にJA関連施設で研修が受けられる制度。

■ **農業次世代人材投資資金(旧青年就農給付金)**
就農初期段階の青年就農者が受けられる国の給付金。

■ **就農塾**
産直等への出荷を前提とした就農塾を市とJA広島北部で毎月1回開催。

■ **就農相談**
市とJA広島北部の連携により、作物の栽培情報や農業に関する助成金制度など様々な相談に対応。

■ **無料職業紹介所「しごと応援窓口」**
市内事業所・農家等とター、Uターン希望者や求職者をマッチング。

農事組合法人ふかせはこれを活用



「若い人が農業に入りやすい環境を作ってあげたい」とふかせ代表の中村計助さん(左)と農場長の浅井澄夫さん(右)

「農事組合法人 ふかせ」

引地翔平 さん

SHOUHEI HIKIJI

祖父母が農業を営んでいたこともあり、幼い頃から作物の栽培に親しんできた引地さん。新鮮な野菜の美味しさや収穫の喜びを感じているうちに、将来の仕事として自然と農業を目指すようになっていきました。高校卒業後、安芸高田市とJA広島北部が協同で実施している「農業後継者育成支援事業」を活用して、庄原市にある農業技術大学校に進学。卒業後、JA西日本営農技術センターで1年間園芸作物の栽培を学び、国の青年就農給付金(準備型)を2年間受給しながら、北広島町の「ファーム旬彩西田農場」でミニトマト栽培の研修を受けました。現在は甲田町の「農事組合法人ふかせ(以下、ふかせ)」に就職し、ハウスでミニトマトを栽培しています。

一方、「ふかせ」では法人として安定した収益を確保するため、様々な種類の作物を育てる多角的な農業にチャレンジしていました。「米だけに頼っている収入が安定しない。しかし、様々な作物を作ろうと思ったら、マンパワーが完全に不足していました。作業する人の平均年齢が70歳を超えているんですから」と農場長の浅井さん。若い担い手を求めていた時、引地さんを紹介されすぐさま採用。引地さんがミニトマト栽培の経験があったことから、即戦力として1年目からハウス6

棟を任せることにしました。

「ここでハウスを任せてもらえることになり、生産量を上げなければ!というプレッシャーもありますが、それ以上にやりがいを感じています」と引地さん。続けて「農業は自分のやりたいと思うことをすぐに実行できる場所。自分の意欲次第でいくらでも成長できる。そこが面白いところです」と農業の魅力について語ってくれました。ふかせ代表の中村さんは「実はもう一人若手の担い手を雇いたいと思っています。若者に来てほしいと思ったり、給料の面、福利厚生面の充実させなければなりません。そのためにも収益をしっかり上げて、スタッフに還元していきたい」と意気込んでいます。ふかせでは市の無料職業紹介所「しごと応援窓口」を通して人材を募集しています。「初心者でも大丈夫。必要なのは農業が好きだという気持ちとやる気、元氣、根氣。知識や技術は始めてからでも身に付きます」と浅井さん。引地さんは「就農する場合、個人でやる方法と法人に就職する方法がありますが、個人でやる場合は土地や機材などの初期投資や繁忙期の人材の確保なども一人でする必要があり負担が大きいです。法人への就農は、先輩方が作った母体で夢を実現できる新しいカタチだと思います」と話してくれました。

多文化共生

外国人



上岡さんのサポートを受けてセザルさんが市内に建てた夢のマイホーム。日本に永住することを決めたのも上岡さんの存在があったからこそ



上岡さんの存在、自然豊かな環境、人の温かさ、治安の良さ、子どもの将来から永住を決めました。

ブラジル出身
但馬セザルさん
レキサンドラさん
チヨコさん
ミツルさん

相談員
上岡真理さん
MARI UEOKA



安芸高田市には現在、約80人のブラジル人が暮らしており、その多くが永住者です。そんな人々の暮らしを支えているのが市の相談員として活動している上岡さん。日本人の両親のもと、ブラジルで生まれ育つた上岡さんは、今から20年前に来日。北広島町などでボランティアとしてブラジル人のサポートにあたり、7年前に市の相談員に就任しました。今は電話やメールを含めて月に100〜200件の相談を受けています。「ブラジルの方が日本で暮らす上で最もネックになるのが、文化の違い。何か問題が発生した時に、地域の方、ブラジルの方、どちらの言い分も間違っていないことがよくあります。両親が日本人で、ブラジルで育った私は、どちらの気持ちも理解できます。互いが譲り合える点を見つける調整としての役割も大きいです」と上岡さんは話します。

来日して25年が経つセザルさん、レキサンドラさんも上岡さんからサポートを受けてきたブラジル人ご夫婦。「真理さんは私たち家族に事務的な相談員としてではなく、友人として接してくれます。その距離感がとてもうれしい。私たちが相談ごとだけでなく日常生活であつたいろいろな話をします」とセザルさん。上岡さんの存在、自然豊かな環境、人の温かさ、治安の良さ、お子さんの将来などからセザルさんご夫婦は、安芸高田市に永住することを決意しました。2年前には緑豊かな高宮町に家を新築。レキサンドラさんは「家を建てるために必要な事務手続きが多く、自分たちの力だけではとても夢は叶いませんでした。真理さんやハウスメーカーの人がひとつひとつ丁寧に説明してくれたり、家を建てた先輩にアドバイスをもらったりしながら、やっと完成した思い入れの強い家。高校生の娘と中学生の息子も自分たちの部屋ができて喜んでいます」とにっこり。今では13世帯のブラジル人家族が安芸高田市に住宅を取得されています。

上岡さんはこうした日々の相談以外に、子どもたちが母国語を忘れないようにとポルトガル語教室を開いたりブラジルのダンスを教えたり、パーティーや交流会を主催したりと様々な活動を行っています。「今ここで暮らしている子どもたちの中には、ブラジルのことを全く知らない子もいます。母国のことを知ってほしい、忘れないでほしいという気持ちが原動力です」と上岡さん。安芸高田市で暮らすブラジルの方たちの「安心」のために、今日も上岡さんは忙しく市内を駆け回っています。



ポルトガル語圏の人たちの強い味方

多文化共生 相談員 とは

ポルトガル語の通訳・翻訳員として月曜から金曜までの9時30分〜16時30分の間、市役所にて様々な手続きのサポートを行うほか、暮らしの困りごとなどの相談も受け付けています。電話やメールでの相談も可能。市内に暮らすポルトガル語圏の方をトータル的にサポートしています。



「私たち家族にとって真理さんは特別な存在」とセザルさん。真理さんと固い絆で結ばれています



6月のお祭り「フェスタジュニーナ」



ダンス教室での一枚



クリスマスパーティーは大盛り上がり

生活支援員制度

高齢者



川根振興協議会
エコミュージアム川根

岡田千里さん
CHISATO OKADA

ご近所同士が声を掛け合うのは自然なこと。
小さな変化に気づけるのもご近所さんならではのです。

職場の仲間たちと作戦会議中。会議中は楽しい笑い声が響きます。明日のお弁当の献立やイベントの相談をしています



安芸高田市では、平成29年度から地域振興会を中心に高齢者の生活の様子、課題を知り、日々のさりげない見守り活動で孤立死や引きこもりを防止する『生活支援員制度』を進めています。ひとりぐらしの高齢者や高齢者のみの世帯が増え、社会参加が少なくなる高齢者の孤立によって起こる様々な問題を未然に防ぐために作られた制度ですが、その取り組みをずっと以前から地域ぐるみで行っている地区があります。それは市の北部、島根県との県境に位置する川根地区。ここで長年に

世間話をしているうちに長居してしまうこともしばしば。岡田さんにとってかけがえない時間です



わたって活動している岡田さんはそのパイオニア的存在です。岡田さんが勤めるエコミュージアム川根の仲間とともに、毎日お弁当を作って高齢者宅に届けたり、さりげない電話や訪問で高齢者と自発的につながりを持っています。「子どものころ、親や周りの大人たちに、おかげ様、おたがい様、もったいないといった生き方の基本を教わりました。昭和41年に川根に嫁いでからずっと地域の人にかわいがってもらい、その支え合いのありがたさを実感しています。だからこそ、ご近所同士が声をかけ合うのは自然なことだし、自分が役立てることがあればうれしいですね」と笑います。岡田さんが始めたご近所に声をかける活動は、徐々に協力者が増え、地域全体へと広がって

いきました。職場の仲間5人が当番制で作るお弁当は日替わりで、バランスの良い5品が盛り込まれたおふくろの味。「今日は何かな？」とみんな楽しみにしてくれている。お弁当を持って行って顔を合わせれば、いろいろな話に花が咲きます。元旦には刃物を使ってはいけません。元旦には刃物を使ってもいいけど、とか、節分に囲炉裏の周りに豆を12個並べて割れた月は水が少ないとか、昔からの言い伝えは全部近所のおじいちゃん、おばあちゃんから教えていただきました。これが私の宝物ですね」。朝、カーテンが開いてないと声をかけたり、いつもならいる時間なのに電気がついていないと電話をしたり、小さな変化に気づけるのもご近所さんならではのです。「私がカーテンを開け忘れ

ていた時も、近所の人が声をかけてくれました。こうしたささいな見守りで互いが互いを助け合えるような関係性が生活支援員制度をきっかけに市全体に広がってくれたらうれしい」と岡田さんは話します。現在、仲間と一緒に暖かくなった地域の高齢者に声をかけて何かしようという画策中。「みんなで宿泊してみよう」と話しています。1晩集っていろいろな話をして楽しみたい」と意欲は尽きません。50年前、隣の地区から嫁いできた元気がいっぱい娘さんが今でも住民同士の架け橋になっていました。住民同士が気軽に声を掛け合える、そんなまちづくりを市は進めています。

岡田さんの取り組みの一部



岡田さんは毎日3軒のお宅にお弁当を配達。「喜んでもらえるし、こちらお顔が見えて一石二鳥です」



この日のお弁当は唐揚げがメイン。野菜もたっぷり入ったバランスの良いお弁当をみなさん楽しみにしています

ご近所同士が声をかけ合う安心なまちへ

生活支援員とは

地域振興会を中心に、地域内高齢者の方の生活実態や課題を調査・把握するとともに、日常的なさりげない見守りにより、孤立死や引きこもりを防止し、「地域の支え合う力」を強化するための取り組みです。

光ネットワーク

ビジネス



株式会社フリーエム FREE M

広域にわたる営業所・工場の管理や
基幹業務が驚くほどスムーズになりました

「ADSLの時は本社だけが時代に取残されたような感じで運営をしていました。光回線が通って本当に良かった」と福永さん



安芸高田市に本社を構えるフリーエムは、自動車や建設機械などの部品に使われる鉄板の加工・販売を行っている会社です。平成6年に広島市中区で創業し、平成11年に県内各地と島根県へのアクセスが良い安芸高田市に本社を移しました。県内に3ヶ所、島根県に2ヶ所、岡山県に1ヶ所、九州地方に1ヶ所の切断加工拠点をもち、トラックによるジャストイン配送を行っています。広域に広がる営業所と工場間の動きを一括管理するのは、独自に開発されたシステムを導入したオフコン。フリーエムの福永さんは「安芸高田市には光回線が通っていなかったため、本社だけがADSLで対応していました。個別にNTTにも申し込みをしましたが、整備対象のエリアではなく、今は通す予定もないという回答が続いていました。レスポンスが遅く、販売管理、生産管理などの基幹業務は特に不便さを感じていました」と振り返ります。

安芸高田市では市が平成25年10月に、市内全域に光回線を整備。今では市内の隅々まで光回線を利用することができるようになりました。「画像データや図面データのやり取りも増えているので、注文に関するデータのポリウムはどんどん増加していました。これまでは容量の大きいデータを3回のメールに分けて添付したり、さらに容量の大きいデータはUSBに落として郵送したり、ダウンロードにもの凄く時間がかかったり。みんなストレスを抱えながら業務を行っていたと思います。小さなことですが、光回線が通ったことで、かなりの効率アップに繋がっています。光回線になった時、社員から『はやっ！』と声が上がったほどです（笑）」。

また、これにより各地に拠点を持つ企業ならではの悩みも解消できたそうです。「弊社のように拠点数が多い企業は、加工の上り具合や出荷日々の売り上げなど、それぞれの動きをリアルタイムで瞬時に把握する必要がります。光回線になったことで、非常にスムーズな管理体制が整いました」。社内にルーターを設置し、社員は自由にWi-Fi（無線LAN）を利用することもできるようになりました。「休憩時間にはスマートフォンを利用することが多いですが、こちらもスムーズ。仕事以外の面でも職場環境を整えることができて大満足です」と福永さんは嬉しそうに話してくれました。

注文に応じて、鋼板の切断（シャーリング）加工を中心にプレス、穴あけ、溶接を行う本社工場。ここだけで月に300tの鉄を加工しています



フリーエムの本社。広い敷地内には鉄板の加工などを行う工場もあります

早い光回線で ストレスなし！ 光回線 を整備

平成25年10月に市内全域の光回線を整備。どこでもスムーズな通信が可能になりました。また、見た目はテレビ電話のようなお太助フォン（IP告知端末）で行政情報を通知するなど、様々なサービスを提供しています。お太助フォン同士はテレビ電話で無料通話も可能です。

株式会社フリーエム
住所／安芸高田市八千代町下根2138-4

安芸高田市の情報は
ホームページをチェック

安芸高田市ホームページ
http://www.akitakata.jp/ja/



安芸高田市観光ナビ
http://akitakata-kankou.jp/



安芸高田市定住ホームページ
http://www.akitakata.jp/ja/shisei/
section/chihousousei/z511/



安芸高田市 Facebook
https://ja-jp.facebook.com/
akitakatacity/



広島県安芸高田市
地域おこし協力隊 Facebook
https://ja-jp.facebook.com/
love.akitakata/



安芸高田市観光協会 Facebook
https://ja-jp.facebook.com/
akitakata.kankou/



安芸高田移住情報 Facebook
https://ja-jp.facebook.com/
city.akitakataiju/



紹介した制度の
お問い合わせ先はこちら

起業 × 挑戦するオーナー
産業振興部 商工観光課
☎0826-47-4024

空き家活用 × U・Iターン者
建設部 住宅政策課
☎0826-47-1202

お太助ワゴン × 運転をしない暮らし
企画振興部 政策企画課
☎0826-42-5612

出会い × 結婚サポート
安芸高田市結婚相談窓口
☎0826-42-1126

子育て × 保健師・栄養士
福祉保健部 健康長寿課
☎0826-42-5633

教育 × 学びやすい環境
教育委員会事務局 教育総務課
☎0826-42-0049

伝統芸能の継承 × 神楽
産業振興部 商工観光課
☎0826-47-4024

農業 × 若者
産業振興部 地域営農課
☎0826-47-4021

多文化共生 × 外国人
市民部 人権多文化共生推進課
☎0826-42-5630

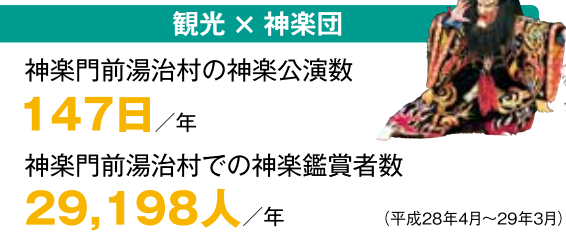
生活支援員制度 × 高齢者
福祉保健部 健康長寿課
☎0826-47-1281

光ネットワーク × ビジネス
総務部 情報管理課
☎0826-42-5640

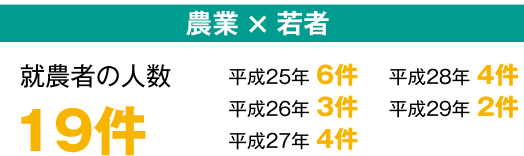
環境が育む子どもたちの力 /
学びやすい環境 × 子どもたち



安芸高田市観光の大きな吸引力 /



未来を担う新たな就農者が続々と誕生 /



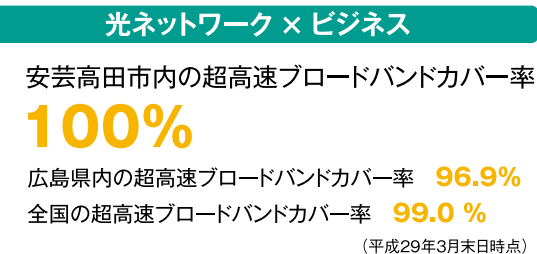
外国人移住希望者が年々増加中 /



生活支援員制度で高齢者のひとり暮らしも安心 /
生活支援員制度 × 高齢者



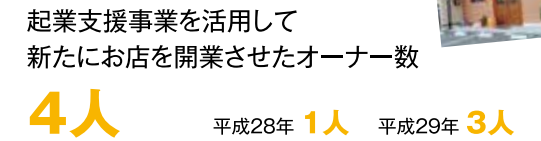
リモートワークに最適 /



数字で見る

安芸高田

新しいお店が年々増加中 /
起業 × 挑戦するオーナー



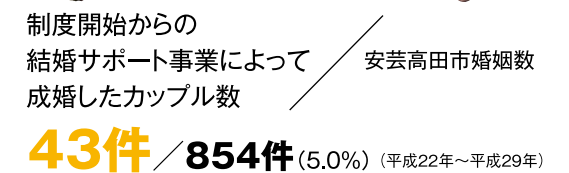
広島県内で一番使ってもらっている空き家バンク /
空き家活用 × U・Iターン者



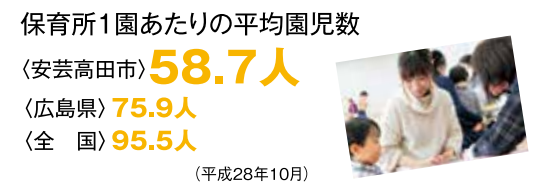
高齢化率の高い安芸高田市にはかかせない /
お太助ワゴン × 運転をしない暮らし



8年間で43組のカップル誕生 /
結婚サポート × 出会い



ひろびろとした施設でのびのび保育 /
安心できる子育て環境 × お母さん



安芸高田市は こんなまち



安芸高田市は、面積の約8割が森林、市内の真ん中を江の川が流れる自然豊かなまちです。標高200mの盆地型気候で寒暖の差が激しく、おいしい作物が育つ土地柄で農業も盛ん。朝は幻想的な霧がかかることもあります。広島市内と国道54号線で繋がりと、都心へのアクセスも抜群。利便性と自然を兼ね備えた暮らしやすさが魅力です。



access

バス

- 広島バスセンターから 約1時間30分

車

- 中国自動車道 高田ICおける(安芸高田市美土里町)
- 広島市から国道54号北上 約1時間
- 三次市から国道54号南下 約30分

JR(芸備線)

- 広島駅から向原駅(安芸高田市向原町)..... 約1時間10分(快速約50分)
- 広島駅から吉田口駅(安芸高田市甲田町)..... 約1時間15分
- 広島駅から甲立駅(安芸高田市甲田町)..... 約1時間20分(快速約1時間)

高速バス

- 広島バスセンターから中国自動車道美土里バス停 約1時間(安芸高田市美土里町)
- 広島バスセンターから中国自動車道高宮バス停 約1時間5分(安芸高田市高宮町)



[発行・問い合わせ]

広島県安芸高田市 地方創生推進課

☎ 0826-42-2124 ✉ chihouseisei@city.akitakata.jp